

G

NHK SPECIAL スペシャル

パンデミック激動の世界

第10回 迫る“介護崩壊” 誰が老後を守るのか (仮)

5月23日(日) 午後9時～9時49分



65歳以上の高齢者が28.7%と過去最高を更新し続け、高齢化が加速する日本。パンデミックは、日本の高齢者介護の風景を一変させた。現場では、避けられない身体接触と感染対策とのギリギリのバランスを探る“新しい介護様式”への転換が求められている。

しかし、新型コロナウイルスの影響で「崩壊寸前」の危機に陥る介護現場も少なくない。サービスを提供する事業所の中には、密を避けるための利用控えや衛生用品の購入コストなどで収支が悪化、経営難に陥るところも。去年1年間の介護関連の倒産件数は118件、過去最多となった。さらに感染への不安などからヘルパーの離職・休職が相次ぎ人手不足が深刻化。負担が家族にのしかかり、必要な介護が受けられない事態も発生しつつある。

介護サービスを支える「介護保険制度」ができて、今年で21年。高齢化や少子化が進む中で、新型コロナウイルスの感染が広がる前から、財源や人手の不足という課題を抱えてきた。そこを襲ったパンデミックが、“介護崩壊”の危機を加速させた。一方で、各地でその危機を乗り越えようという模索も始まっている。高齢化率40%を超える北海道幌加内町では、介護保険に加えて町独自の財源を投入、町職員が退職してNPOを立ち上げ、住民のための介護サービスを提供している。生まれ育った地域で暮らしたいという思いから、住民は税金の負担を受け入れた。東京・江戸川区では、介護の手助けが必要な住民のニーズと、手助けできる地域の人とを結びつける新たなアプリを開発。ボランティアをするとポイントがもらえ、地域の店舗や施設で使える仕組みを作ろうとしている。



かつてない困難に直面する日本の介護。番組では、大越健介キャスターが、国内外の先進事例や専門家への取材を基に、どうすれば高齢者の暮らしを守っていけるかを探る。